

家庭教育通信

ビミョーな年ごろ
～思春期のこどもとくらす～3

第21号 平成23年9月11日発行

<テーマ> お父さんは「うざい」

9月です。この夏休みの我が子は、先輩や友達と部活動に思いきり汗を流しました。自分が意外にも頑張れたことに驚き、学習や体力等の「可能性」の広がりにも自信をもったようです。

我が子は成長しているのに父親は気付かず・・・

そんな我が子の成長に対して、意外に鈍感なのが父親です。玄関にある靴などを見て、身体が大きくなったことを感じつつも、心の成長はつい見逃しがちです。小学生の頃の幼いイメージが、まだまだ残っているからです。朝早くに家を出て、深夜に帰宅することが多い父親の日常を考えると、仕方のないことかもしれません。

そして父子の距離は広がる

中学生は、様々な大人と関わり合いながら日々の生活を送っています。話を交わす先生の数も増えました。近所の人や友達の家での挨拶も、そつなくできるようになってきました。

彼らは外で立派な中学生を演じ、余分な気遣いをする分、往々にして内づらは悪くなるものです。そんな時、珍しく顔を合わせたお父さんに、「勉強は大丈夫か？」などと言われると、つい「うざいんだけど…」と、生意気な態度や口応えをしてしまいます。

その反応は、成長の立派な証です。しかし、多くの父親は「生意気になった」とか「素直さがなくなった」と驚きを隠せません。そして、頭ごなしに叱りとばし、父親の権威を保とうとします。こうして我が子との距離は、広がっていくのです。

お父さんのほうから距離を縮める努力を

中学生のこの時期は、一生のうちで最も多感で、正義感にあふれています。ですから、都合に合わせた大人のいい加減なごまかしは通用しません。

子どもとの距離を感じたら、次のような方法でお父さんの方からその距離を縮める努力をしてみてください。

- ★頑張りを出して認める。
- ★時には一緒に作業をする。
- ★部活などの応援に行く。
- ★適当にごまかさない。
- ★日常の挨拶は父親からする。